

阿寒摩周国立公園 川湯園地

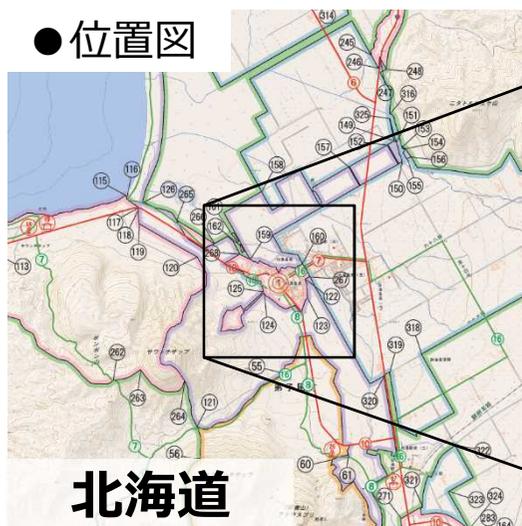
変更

区域面積：5.5ha→8.0ha[※]

執行者：環境省、弟子屈町、民間

第2種特別地域（環境省所管地、公有地、民有地）

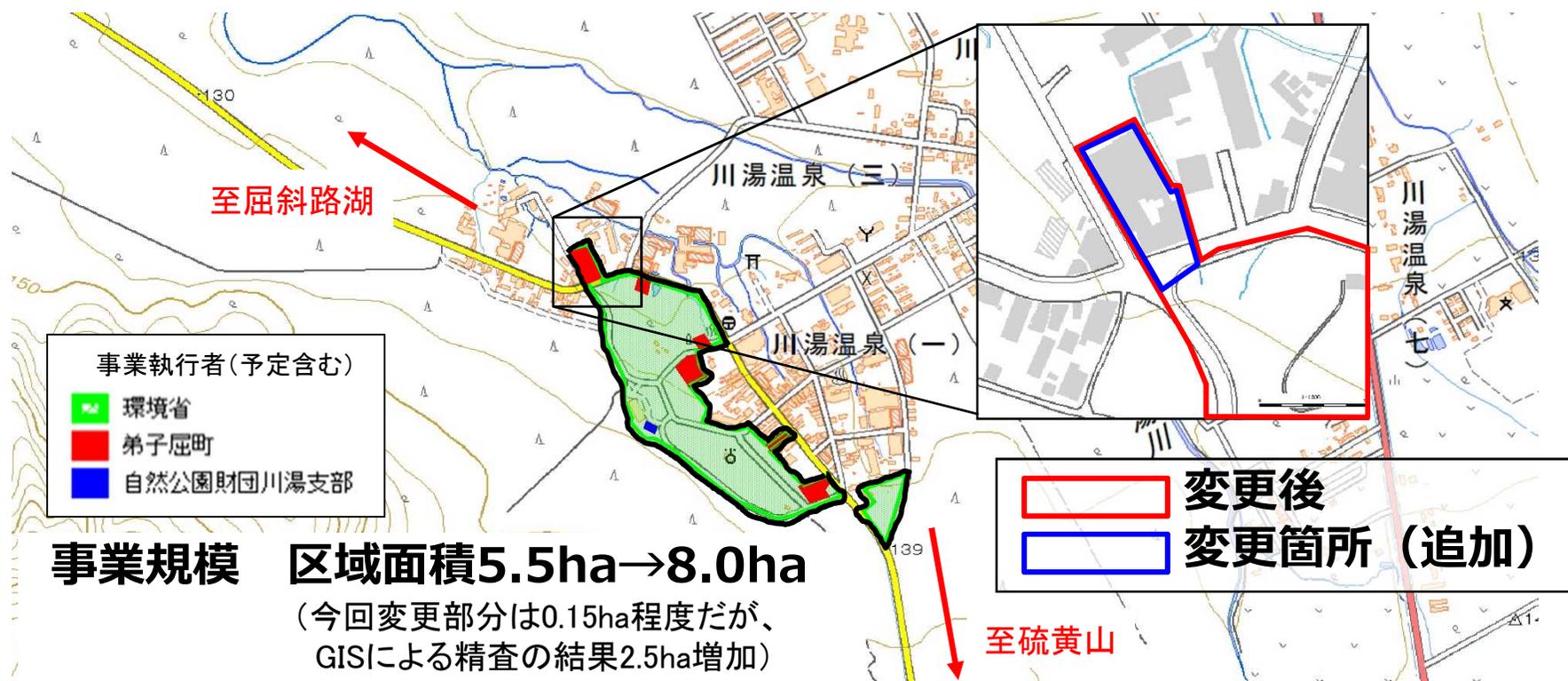
●位置図



●計画図



- アカエゾマツの美林に囲まれ、硫黄山を熱源とした豊富な温泉に恵まれた温泉街に隣接
- 低標高にも関わらず、川湯温泉街から硫黄山にかけて、イソツツジやハイマツを主体とする高山的な植生を有する。



- 当該園地は、川湯集団施設地区内の一角に整備され、川湯宿舎を起点とした本国立公園における活動拠点として重要な役割を果たしている。
- 平成29年度に弟子屈町が策定した川湯温泉地区景観整備構想において、温泉街らしい景観を作り上げるための中心拠点として、当該変更箇所の重要性が示された。
- 公園事業者をはじめとした地域の方々との連携をはかり、本国立公園の魅力向上の加速化のために早急な園地整備が求められる。

阿寒摩周国立公園 川湯宿舎

変更

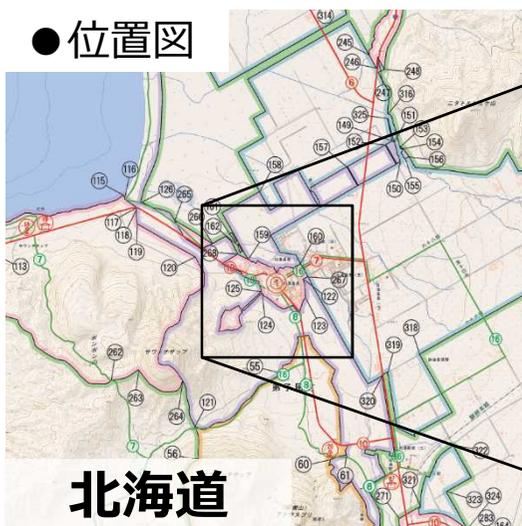
区域面積：27.5ha→27.0ha

最大宿泊者数：5000人／日→変更なし

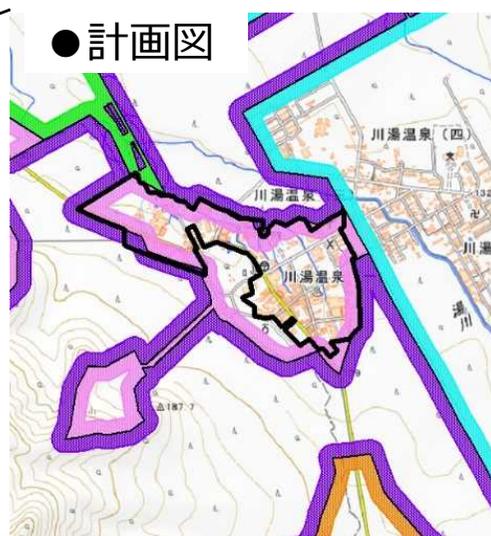
執行者：民間

第1種、第2種特別地域（環境省所管地、公有地、民有地）

●位置図



●計画図



撤去予定宿舎（東から）

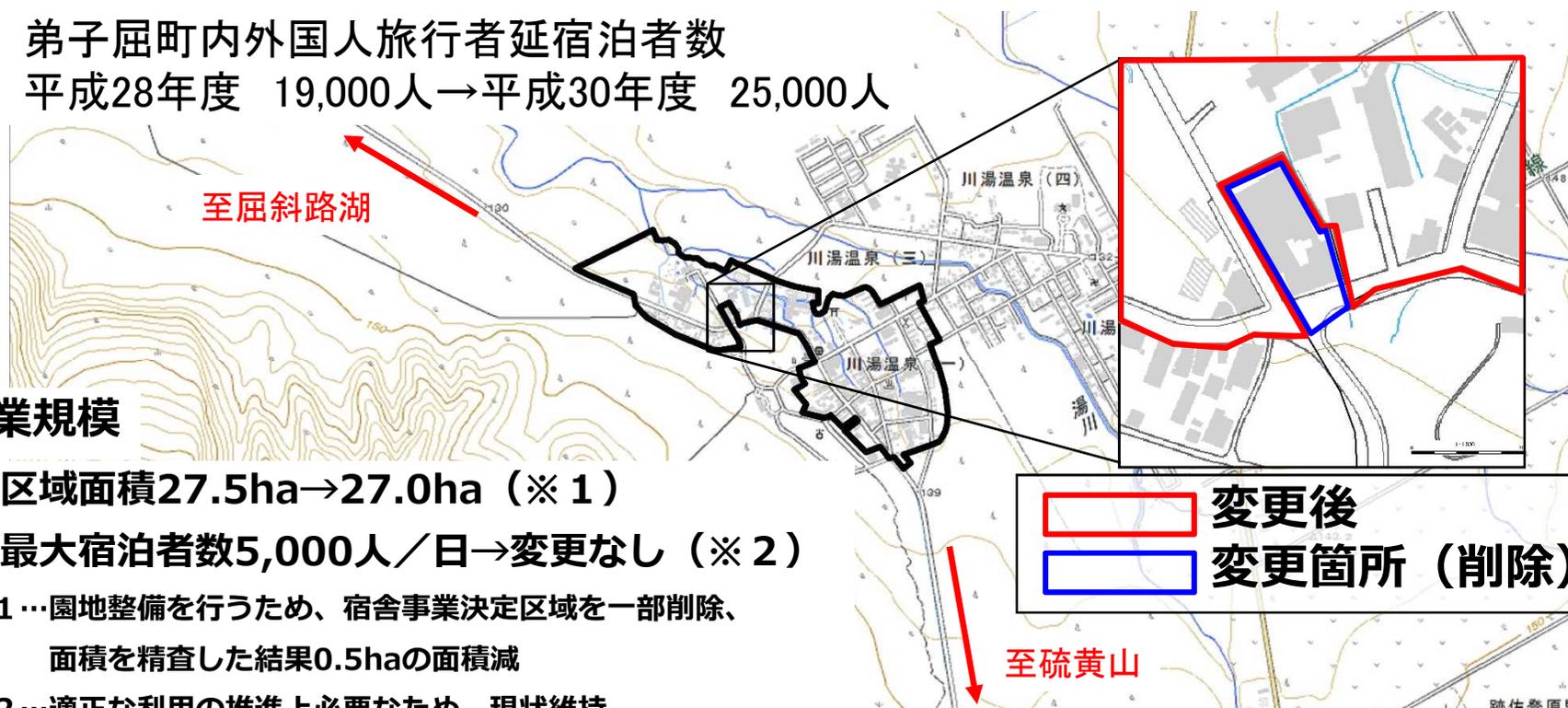


撤去予定宿舎（内部）



- アカエゾマツの美林に囲まれ、硫黄山を熱源とした豊富な温泉に恵まれた温泉街
- 低標高にも関わらず、川湯温泉街から硫黄山にかけて、イソツツジやハイマツを主体とする高山的な植生を有する。

弟子屈町内外国人旅行者延宿泊者数
平成28年度 19,000人→平成30年度 25,000人



事業規模

区域面積27.5ha→27.0ha (※1)

最大宿泊者数5,000人/日→変更なし (※2)

※1…園地整備を行うため、宿舎事業決定区域を一部削除、面積を精査した結果0.5haの面積減

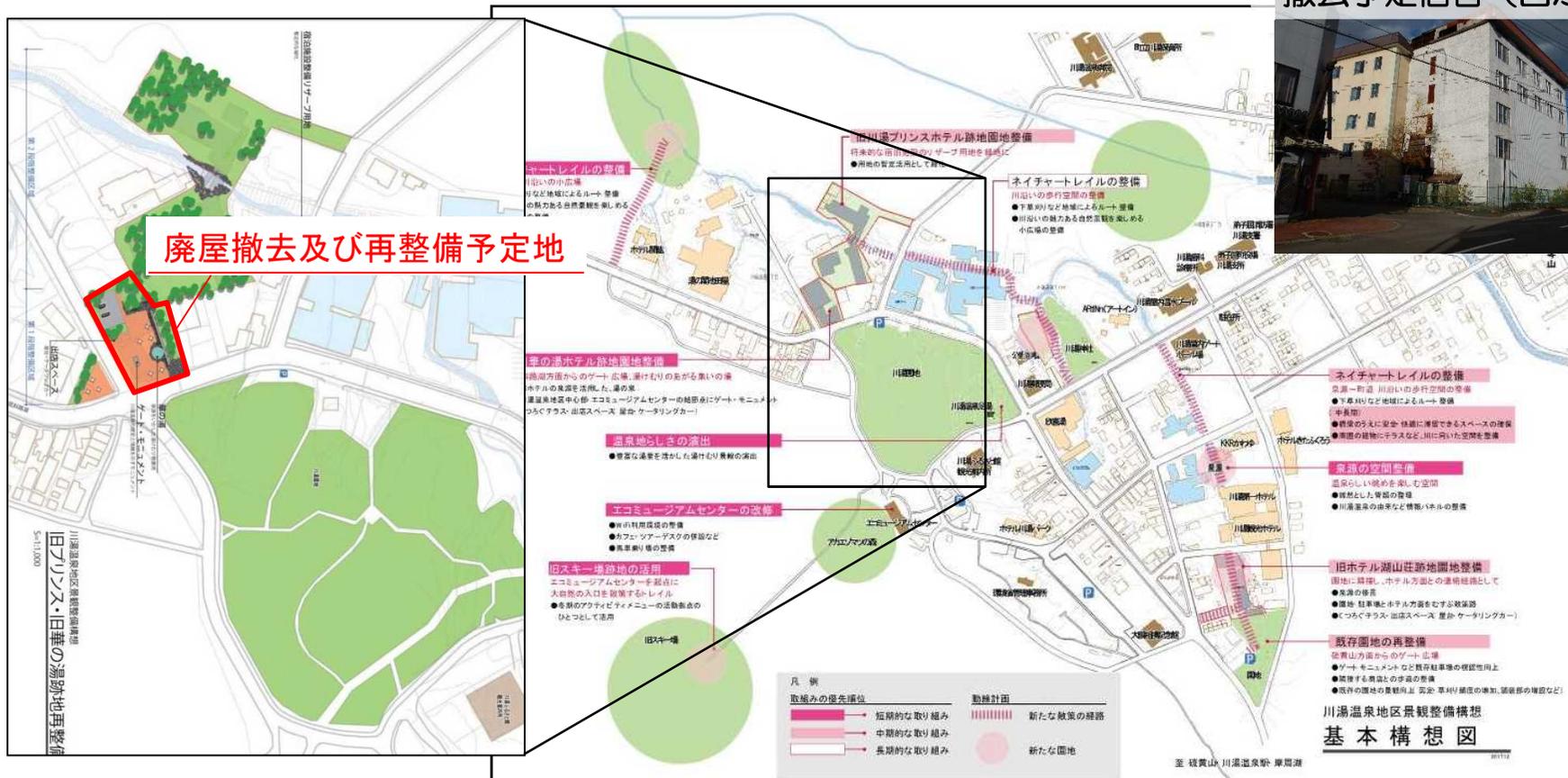
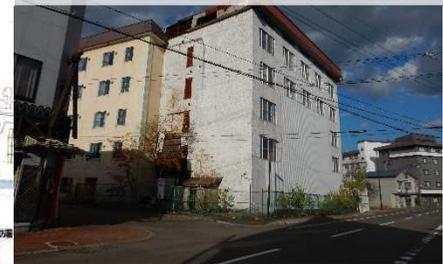
※2…適正な利用の推進上必要なため、現状維持。

- 当該地は、川湯集団施設地区内にあり、川湯宿舎を起点とした本国立公園における活動拠点として重要な役割を果たしている。
- 平成29年度に弟子屈町が策定した川湯温泉地区景観整備構想において、温泉街らしい景観を作り上げるための中心拠点として、当該変更箇所の重要性が示された。
- 弟子屈町長より当該変更箇所の廃屋撤去について要望書が提出されており、本国立公園の魅力向上の加速化のために早急な対応が求められる。

廃屋の撤去並びに園地の再整備

- 本地域は廃屋となった空き家や空き店舗が建ち並んでおり、利用者に与える印象はよいものではない。そこで、温泉街としての魅力ある風致を演出するため、再開の目途が立たない宿舎について解体撤去を行う。
- また、撤去後の敷地に新たに園地を整備し、エントランスとしての空間を創出する。
- 周囲はすでに人為が加わっている市街地であり、希少な動植物種が生育・生息していないことから、自然環境へ与える影響は小さい。

撤去予定宿舎（西から）



川湯温泉地区景観整備構想
基本構想図

日光国立公園 沼原園地

変更

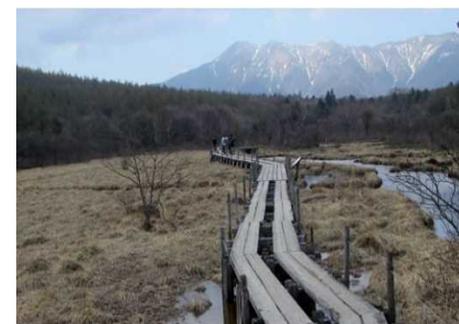
区域：14ha→14.2ha

執行予定：那須塩原市

第2種特別地域、第3種特別地域（国有林）

●位置図

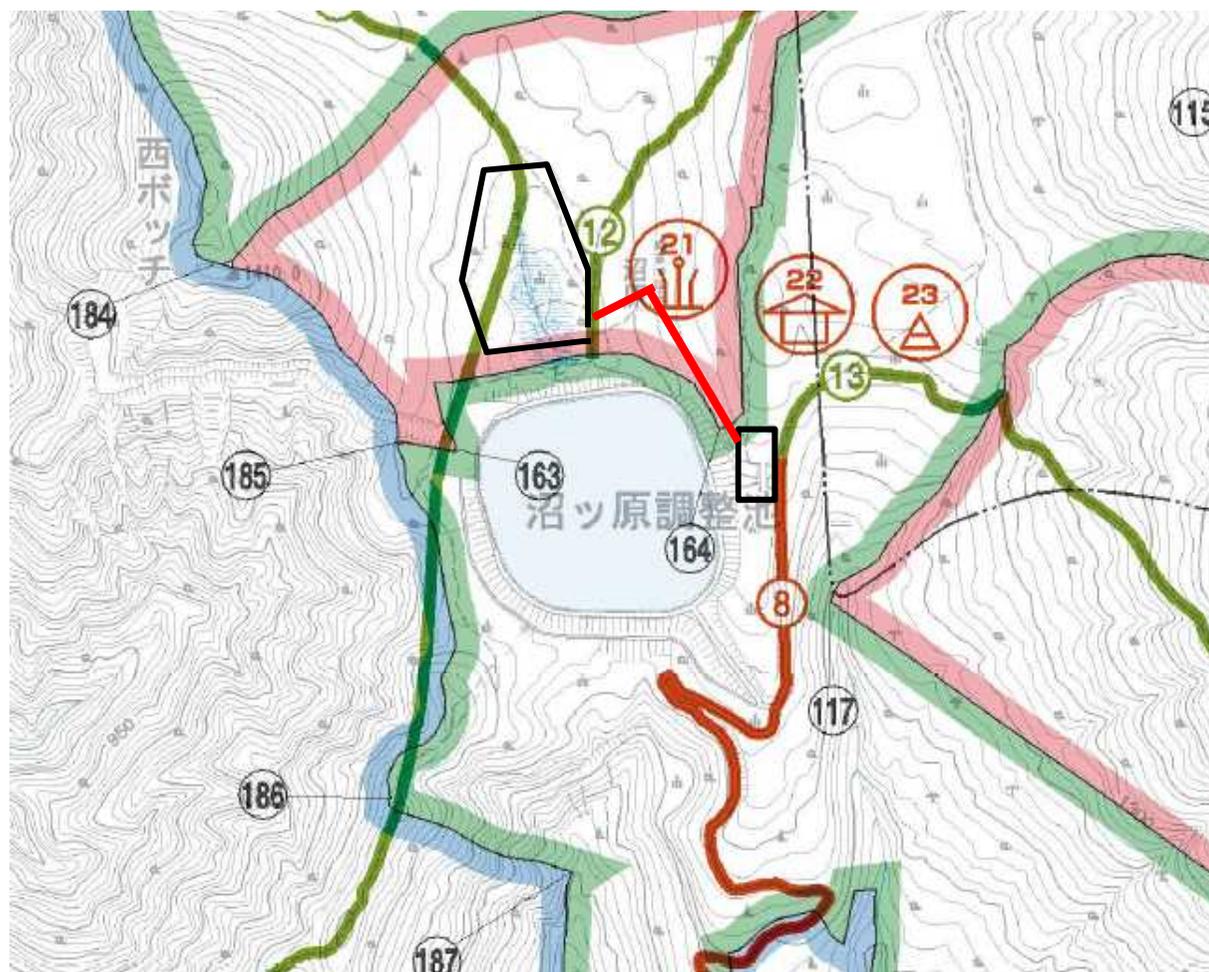
栃木県那須塩原市



沼原湿原

- 茶臼岳の南西部に位置
- 沼原湿原へ向かう主要探勝路
- 茶臼岳・三斗小屋温泉へ向かう登山道
- カラマツ類を中心とした亜高山帯

園地をつなぐ既存歩道の把握



— 変更後追加部分
— 変更前（現行区域）

既存登山道



面積：14ha→14.2ha

執行者：那須塩原市

○すでに園地として整備されている2つの区域間の主要歩道について、公園事業として位置づけるために、事業決定区域について実態に合わせた整理をするもの。

今後の整備予定について



既存の木階段がハードル化しており、歩道が洗掘されているところもあることから、歩行に支障をきたしている。
そのため、木階段の再設置や、水切り工の設置を今後検討している。

中部山岳国立公園 仙人ダム劔沢線

変更

路線距離：16.0km→16.5km

執行者：環境省、富山県

特別保護地区（国有林）



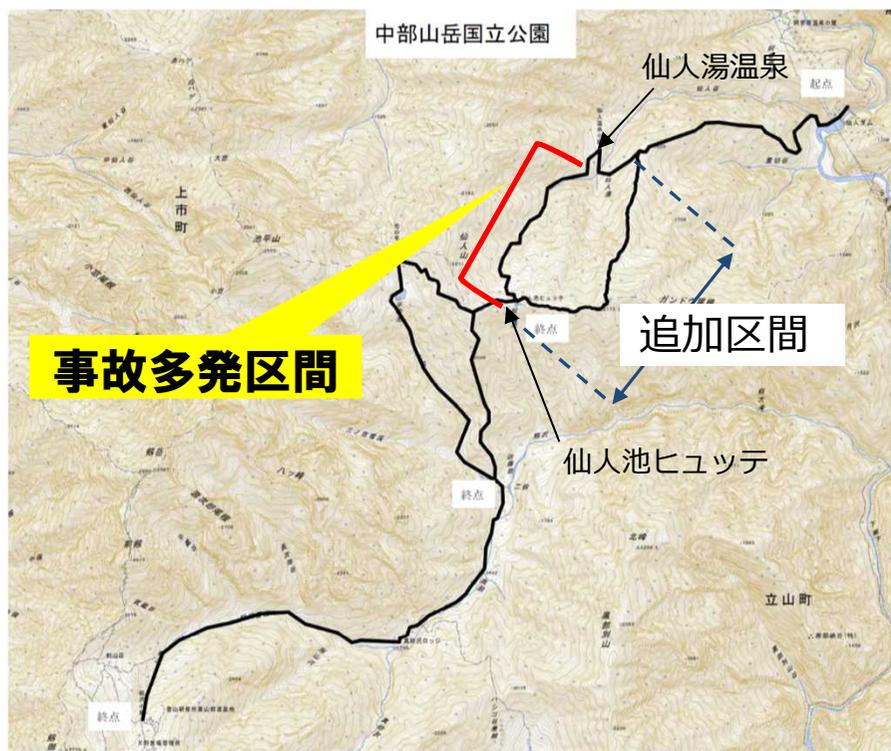
劔沢

仙人池から見た劔岳（裏劔）



○当該地は劔沢、裏劔に位置しており、多くの登山利用者が訪れている。事故多発区間の徒渉箇所等では滑落事故が相次いでいる。

決定区域図



路線距離：16.0km→16.5km



危険箇所の一例

谷線

尾根線



追加区間

○仙人池ヒュッテから仙人湯温泉の間（事故発生区間）で毎年のように事故が発生している。登山道は、岩盤の上に僅かに土砂が堆積しているだけの傾斜地形であるため、路面が崩壊しやすい。

○追加区間は、なだらかな尾根で希少な植生も確認されていない。利用者の安全に資するだけでなく植生保護の観点からも望ましい。新道設置の工事完了後、事故多発区間は廃道を予定。利用動線から外れる仙人湯温泉も同意済み。

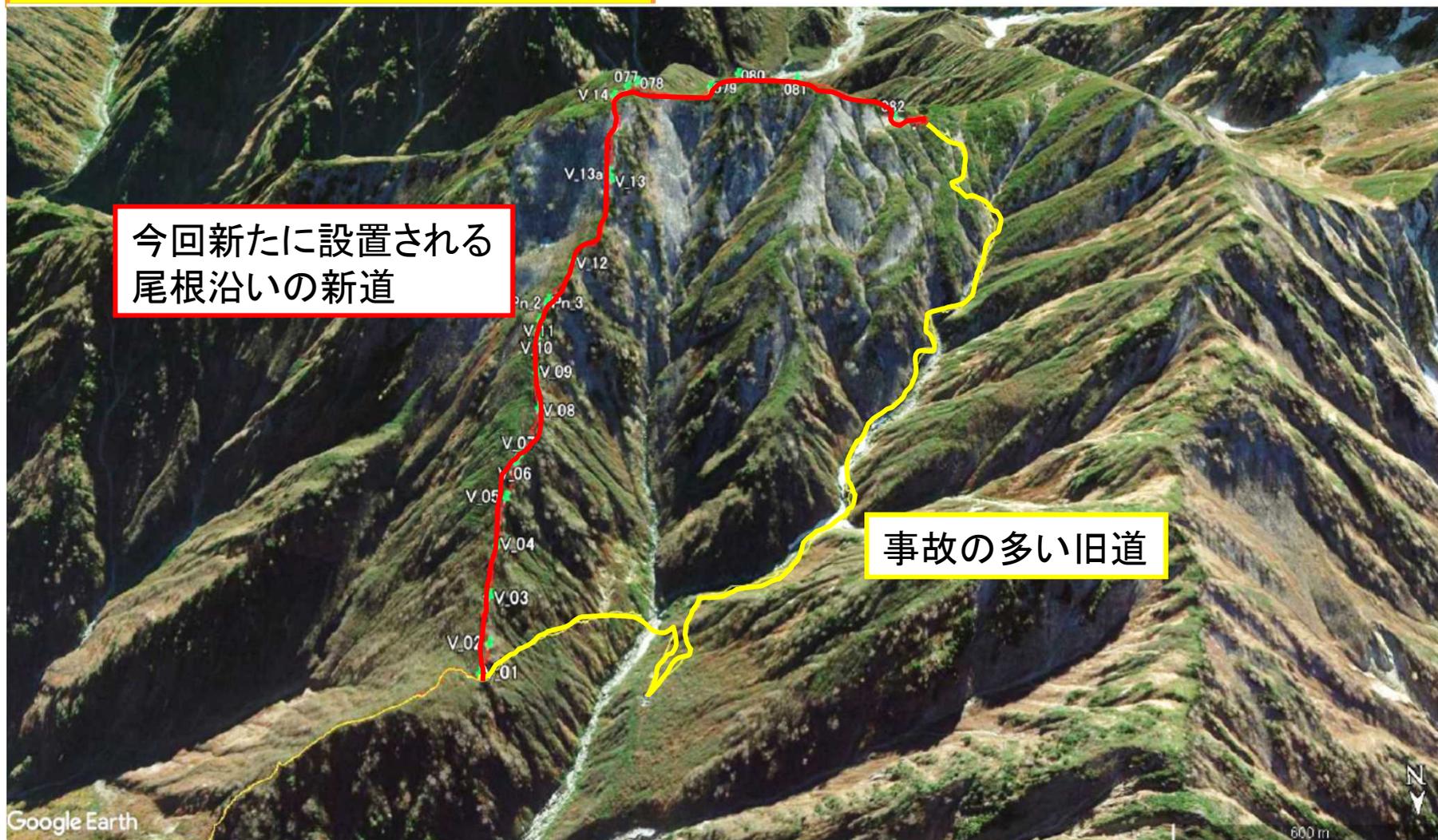
歩道整備（富山県）**執行者：環境省、富山県**

- 利用者の安全確保、路面崩壊による植生への影響回避を目的とした歩道整備をおこなう。

**自然環境への影響**

なだらかな尾根筋につづら折りの歩道を整備する。樹林帯にはブナ、ダケカンバ、広葉樹の灌木、針葉樹が生育し、林床にはササが密生している。大径木は疎らに生育しているため、ほとんどの場所は小径木とササの伐採で足りる。また、現地調査を行った専門家の助言に従い、希少植生が分布している可能性がある池等は回避するルートとしていることから、風致景観及び自然環境への影響は小さい。

植生調査（踏査ルート）



植生調査結果

<調査地点V_01～V_08>

- ・尾根の下部区間
- ・上層が樹高10～20mのブナ、中層は2～2.5mのチシマザサ

<調査地点V_09～V_13>

- ・尾根の中部区間
- ・下部は上層に樹高20m近いダケカンバ、上部は上層に樹高5m前後のミヤマハンノキ
- ・樹高5m前後のミネザクラ

<調査地点V_14～V_16>

- ・尾根の上部区間
- ・オオイタドリ及びチングルマ等が優先し、土壌が薄い

整備方針

- ・周辺施設宿舎の利用人数から現道の利用人数が(推定)2000～3000人程度であるため、極力地形を改変しないルートとする
- ・植生調査結果を基に希少種を回避するルートにする等、自然環境への影響が少ないルートを設計する
- ・R2年度に実施設計、R3年度に施工(予定)

妙高戸隠連山国立公園 野尻湖西部野営場

決定

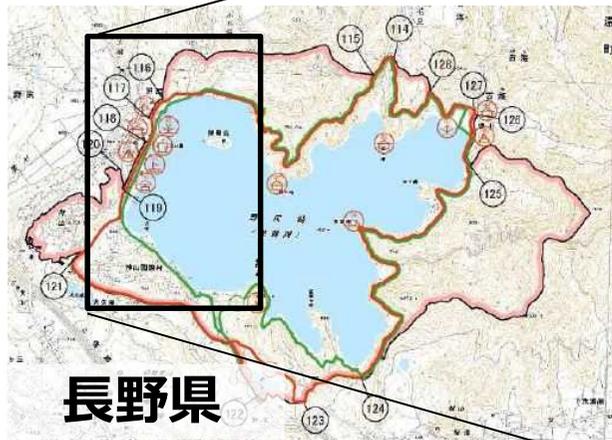
区域面積：8 ha

最大宿泊者数：650人/日

執行者（予定者）：民間

第2種特別地域（民有地）

●位置図



●公園計画図



野尻湖は東部の入り組んだ急峻な地形の東部に対して、西部は穏やかな湖岸線で形成されている。釣りや遊覧船、カヌーなど湖上アクティビティが盛んな地域であり、これら公園利用の拠点西部に集まっている。